



報動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

95.1.13 No. 4124

安全提議 施設合理化 年度末

千葉支社
団交

一月九日、千葉支社は、昨年一月二二日の運転・営業の提案に続き、「年度末諸施策」合理化として施設・電気に関する合理化を提案してきた。

【施設関係】

- (1) 一級線の線路検査周期の変更
- (2) 自動遊間測定装置による線路の遊間検査の実施
- (3) 貨物会社との保守受委託の解消
- (4) レールポンド・レール絶縁等の電気側から施設側への業務移管
- (5) JR東日本メカトロニクスへの業務委託拡大

【電気関係】

- (1) 電車線検査の機械化
 - (2) 電力関係業務の見直し
 - (3) 定常状態監視システムの導入
 - (4) 電気関係区業務実施体制の見直し
 - (5) レールポンド、レール絶縁等の電気側から施設側への業務移管
 - (6) 信号通信関係業務の見直し
- 要員関係も別表のとおり、施設▲七名、電気▲九名という内容であり、とにかく人員削減合理化を徹底しておこなう断じて許せない攻撃となっている。

またも線路検査 周期体制の延伸

とりわけ問題なことは、施設関係では、(1)「一級線の線路検査周期の変更」として、一級線について通過トン数によって二分化し(一a||四千万ト以上・一b||二千万〜四千万ト)と二分化)、一bについては、検査周期を

《一級線区》

四日一回→七日一回

十日一回→十五日一回

《スラブ軌道等区間》
にそれぞれ検査周期を延伸するという内容である。これまで線路を一〜四級線区まで四分化し、線路検査周期を延伸したものを、さらに細分化し、検査周期を延伸するという明らかな手抜き検査によって合理化を行なおうというのである。

線路遊間測定を 手作業から自動化により人員削減!

さらに、自動遊間測定装置の導入によって、これまで年二回手作業によって線路のつぎめの遊間を測定し、データ化してきた作業を、ビデオで遊間を測定する装置を電車で搭載し、ビデオ撮影を元にデータ処理するという自動化による合理化である。チリやホコリも積もらない工場のなかで列車が走っているな

らばまだしも、風雨にさらされ、地震もあれば台風にもさらされる線路をすべてビデオに頼り、自動化して、線路を守るかどうか全く疑問である。

また電気関係でも、電車線検査の機械化、電気関係の専門職であるレールポンド溶接、レール絶縁設置について保線関係に業務移管など安全体制確保に問題がある合理化攻撃である。われわれは、分割・民営化体制十年を射程に入れた矢継ぎ早の合理化攻撃に対し、現場から反撃を組織し、闘いを構築しなければならぬ。

当面の年度末合理化を許さない体制を構築しよう!

【電気関係】

箇所名	関係職	標準数	増減
両国電力区	電気	14	△1
津田沼電力区	電気	17	△1
千葉電力区	電気	18	△1
新習志野電力区	電気	19	△1
成田電力区	電気	26	△1
千葉信号通信区	電気	23	△1
新習志野信号通信区	電気	20	△1
木更津信号通信区	電気	20	△1
成田信号通信区	電気	26	△1

【施設関係】

保守区名	管理室等	職種	員数	増減	記事
新小岩保線区	保線管理室	施設	18	▲2	狩工アを兼
西船橋保線区	新設保線管理室	施設	5	▲1	
	新習志野保線管理室	施設	6	▲1	
船橋保線区	保線管理室	施設	20	▲2	狩工アを兼
銚子施設区	本区	施設	17	▲1	
勝浦施設区	本区	施設	18	▲1	
館山施設区	本区	施設	20	▲1	
千葉機械区	本区	施設	21	+2	
合計				▲7	

「スリジェーブル」
 ・オク回家族会総会 2月5日 13時 千葉市社会センター
 ・勤労千葉乗務員分科会オク17回定期委員会
 2月9日 10時~17時 千葉市市民会館